

# 第59回大津市民体育大会

運営要項 <球技の部>

# 卓球

1 種別 男女シングルス・混合ダブルスで編成される学区チームによる団体戦。

## 2 選手等

### (1) チーム編成と試合順序

- ① 一般男子（18 歳以上）
- ② 一般女子（18 歳以上）
- ③ 混合ダブルス（一般男子と壮年女子または壮年男子と一般女子で編成）
- ④ 壮年女子（45 歳以上）
- ⑤ 壮年男子（50 歳以上）

※ 同一試合において、シングルスとダブルスの両方に出場することは出来ない。

また、一般の部と壮年の部に重複して登録することも出場することも出来ない。

### (2) 監督 1 名、マネージャー 1 名、登録選手 16 名以内のチーム編成とする。

※ 監督、マネージャーがプレイヤーを兼ねる場合も、選手登録は 16 名までとする。

### (3) 大学・実業団リーグ及びプロの登録選手は出場することが出来ない。

## 3 競技運営方法

(1) 現行の日本卓球協会競技規則に準じて行う。（コロナ対策案を含む。）

(2) 試合は、予選リーグ・決勝トーナメントを行い、順位を決定する。

(3) 3 チームによる予選リーグは全て 5 番まで行う。参加チーム数により決勝リーグになった場合は 3 点先取もありうる。1 試合は 1 ゲーム 11 点 5 ゲームマッチとする。

① リーグ戦における順位は、得点（勝ち 2 点、負け 1 点、不戦敗 0 点）で決定し、得点と同じ場合は、当事者間の勝率で決定する。

② 決勝トーナメントからは、3 点先取で勝敗を決定する。

## 4 その他

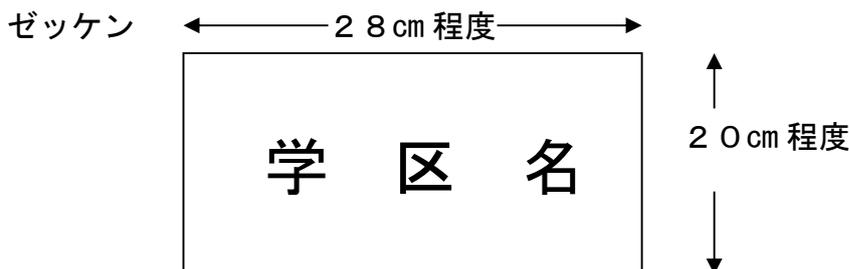
(1) 試合球は、日本卓球協会使用指定球（T. S. P 硬式）とする。

(2) 服装は、日本卓球協会競技規則に示されたもの、または運動に適したものを着用する。

(3) 体育館シューズを必ず着用すること。

(4) 出場選手はゼッケンを背中につけること。

(5) その他、競技運営にかかる一切の問題については、競技委員長が最終決定を行う。



# バドミントン

1 種別 男子・女子ダブルス、混合ダブルスで編成される学区チームによる団体戦

2 チーム編成と参加制限

(1) 選手（男女とも18歳以上 高校生は不可）

①男子ダブルス 1チーム ②女子ダブルス 1チーム ③混合ダブルス 1チーム  
※混合ダブルスは、男女合計年齢90歳以上とする。（但し、40歳以上の選手とする）

(2) 監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手12名以内のチーム編成とする。

※監督、コーチ、マネージャーがプレイヤーを兼ねる場合も、選手登録は12名までとする。

(3) 原則的には大会要項に基づいて行うが、過去3年以内（大会前日まで）に全国大会の選手登録のある者は参加できない。

(4) 大学・実業団リーグの登録選手は出場することが出来ない。

3 競技運営方法

(1) 令和6年度日本バドミントン協会競技規則に準じて行う。（コロナ対策案を含む。）

(2) 各種別とも、1ゲーム21点とする。

20点オールの時、その後2点差の得点をしたサイドがそのゲームでの勝者となる。  
ただし、29点オールになった場合は、30点を得点したサイドがそのゲームの勝者となる。

(3) 試合は予選リーグと決勝トーナメントで行う。ただし、勝敗およびセット数同一の場合は得失点の得点の多いチームが決勝トーナメントに進めることとする。

4 その他

(1) 出場選手はゼッケンを背中につけること。

(2) 検定球（水鳥）を使用する。

(3) ベンチには、監督、コーチ、マネージャー、選手以外は入らないこと。

(4) 主審は指名審判制で行い、線審、スコアラーは対戦学区相互で行う。

(5) 体育館シューズを必ず着用すること。

(6) その他、競技運営にかかる一切の問題については、競技委員長が最終決定を行う。

(7) 当日棄権が多いときは主催者の方で組合せを変更する場合があります。

ゼッケン ← 28 cm 程度 →



# ソフトボール

## 1 チーム編成と参加制限

(1) 監督 1 名、コーチ 1 名、選手 19 名以内とし、選手は 18 歳以上の者とする。

試合には、40 歳以上の者が常時 5 名以上出場していること。

(2) 監督、コーチがプレイヤーを兼ねる場合も、選手登録は 19 名までとする。

## 2 競技運営方法

(1) 2024 年オフィシャルソフトボールルールに準じて行う。

指名選手及び再出場制を採用することができる。

(2) 試合は時間制を採用し、決勝戦は 60 分 7 イニング、その他は 50 分 5 イニングとする。

ただし、残り時間が 5 分をきって後攻チームがリードしている場合はその時点で試合終了とする。

(3) 同点の場合は抽選により勝者を決定する。延長は行わない。決勝戦も同様とする。

(4) 監督の背番号は 30 番、コーチの背番号は 31 番とし、抗議は監督だけができる。

(5) 特設ルールとして、1 回の攻撃で 5 点以上の得点が入った場合はその時点で攻撃を終了し、攻守交代とする。次のイニングの攻撃は無死、無走者として行う。ただし、決勝戦においては特設ルールは採用しない。

(6) ユニホーム、上着には背番号をつける。(ゼッケンを使用してもよい。)

40 歳未満の選手は背番号等に赤ラインを施すこと。

(7) 帽子は野球帽、靴は運動靴とする。ポイントシューズの使用は認める。

捕手はマスクを打者はヘルメットを必ず着用すること。また、捕手はレガースを着用することが望ましい。

(8) オーダー表は試合開始予定時刻の 10 分前に各会場バックネット裏にいる審判員に提出すること。

試合進行をスムーズにするため、10 分前には試合会場に集合し待機すること。ただし、試合が連続するチームは、この限りではない。

(9) 試合級は J S A 検定のゴム製 3 号球とし、バットは、J S A 検定の安全マーク入りのものとする。

(10) 各試合の塁審を担当するチームは抽選後の組み合わせにて決定する。3 名出すこと。また抽選後の出場辞退の場合も審判に該当する場合は必ず 3 名派遣すること。

(11) その他、競技運営にかかる一切の問題については、競技委員長が最終決定を行う。

# バレーボール

## 1 チーム編成と参加制限

- (1) 監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手20名以内とし、選手は18歳以上の者とする。試合には、30歳以上の者が常時5名以上出場していること。
- (2) 監督、コーチ、マネージャーがプレイヤーを兼ねる場合も、選手登録は20名までとする。ただし、当日のエントリーは、選手12名以内とする。
- (3) 同一事業所や大学のバレーボール部員は、当日のエントリーにおいて2名以内とし、試合に同時出場してもよい。

## 2 競技運営方法

- (1) 男子は、2024年度日本バレーボール協会9人制競技規則に準じて行う。  
女子は、「ママさんバレーガイドライン2010」に準じて行う。
- (2) 男女とも、2ブロック2組制で行い、各組の単純トーナメントで行う。3位決定戦は行わない。なお、各ブロックのチーム数・トーナメント表は参加学区数に応じて検討する。
- (3) 参加学区数が少ない場合、各ブロック内での試合はリンク形式で、決勝は上位2チームで行う。順位決定は①勝ち数・②セット数・③総得点・④総失点の順とする。
- (4) 男女共、第1・第2セットは1セット21点先取、第3セットは1セット15点先取の3セットマッチラリーポイント制で行う。(ジュースはなし)

## (5) 基準

	試合球	ネットの高さ	コート広さ
男子の部	検定5号球 (カラー)	2.38m	10.5m×21m
女子の部	検定4号球 (白球)	2.10m	9.0m×18m

## (6) ゼッケン

	18歳～29歳	30歳以上
男子の部	29番以下	30番以上
女子の部	24番以下	25番以上

学区名 ゼッケン番号
---------------

20cm程度

28cm程度

## 3 その他

- (1) 選手は、ゼッケンを胸と背中に糸で縫いつけること。

- (2) 補助役員は、第1試合は第3試合チームから、第2試合以降は、前試合の敗者チームから出すこと。補助役員は、副審1名、ラインズマン4名、スコアラー2名  
(できるだけ主審も、チームからお願いします)
- (3) ベンチは、監督、コーチ、マネージャー、選手の15名以内とする。
- (4) 公式練習は行わない。ただし、前試合終了後、5分間の合同練習をする。
- (5) 体育館シューズを必ず着用すること。
- (6) 選手交代は、1セット3回以内とする。
- (7) 女子の部については、ブロック時、ボールに接触した同じプレイヤーの続いての接触はドリブルとなる。(ボールがネットに触れればプレーは続行できる。接触回数は2回となる)
- (8) その他、競技運営にかかる一切の問題については、競技委員長が最終決定を行う。
- (9) 競技運営方法(2)については、参加チーム数により変更する場合がある。